

「香風」



令和2年
8月31日第5号
発行者
校長 富山拓二郎

重点目標 自分の考えを持ち、主体的に行動し言語で表現できる子ども

前期後半が始まりました

短い夏休みもあっという間に終わりました。部活動も中止して家庭で充実した休みを過ごしたことでしょ。

学校は中盤戦に入り学習や部活に本腰を入れて頑張る期間がきましたが、本年度は新型コロナの影響ですべてにおいて縮小傾向の取り組みになります。毎年楽しみにしていたあかり絵も今年は中止となりました。文化発表会も規模を縮小して開催する予定です。修学旅行についても行き先の変更も含め現在検討中です。部活動では新人大会・駅伝大会・八女地区音楽会などがあります。八女地区連合音楽会も無観客で実施となりました。

様々な変更の中で、我々はコロナ禍における新しい生活様式を確立していかなければならないのでしょうか。

そのような中で、3年生は人生の中で初めての「自分の進路を決定する」という大きな試練が待っています。それぞれの行事や学習に、一つひとつ目標を持って取り組み、学年・学級集団や人として一回り大きく成長してほしいです。

文化発表会は、3年生にとっては最後の合唱コンクールになります。本年度のスローガンは「史上最響 We can do it!!」

南中学校の中心行事です。前年度を上回る素晴らしい合唱を創り上げ、新しい学校文化を創造してくれることを期待しています。ただし、練習や発表の形式も新しい形を模索して実施しなければなりません。今年の生徒会の皆さんには苦勞を掛けることだと思います。また、保護者の参加も学年ごとの鑑賞をお願いすることとなります、ご協力をお願いいたします。



生徒集会での講話（「目的」と「目標」）

「目的」と「目標」という言葉は似ていますが意味が違います。簡単に言うと「目的」は最終的に達成されるゴールです。「目標」は、その目的に迫るための通過点です。目的に迫るためには、いくつか目標を立てて一つひとつ達成することが必要です。受験生である3年生は、今、目標とする学校への進学を目指しています。でも、目標とする学校に合格してそれで終わりではありません。入学した学校で何を学び、将来自分はどんな人生を目指すのかなど、皆さん一人ひとりが目的をしっかりと持っていることが大切なのです。

私の大学の友人に、新作落語を演じる落語家になりたいという夢を叶えるために、卒業直前に大学を辞めて落語の世界に飛び込んだ人がいます。落語家は「前座」「二つ目」という修業時代を経て「真打ち」に昇進すると一人前の落語家と言われるのです。彼は修業時代、師匠に言われたそうです。「前座時代は古典落語を学びなさい。」「芸の未熟なものが新作を話しても、お金を払って落語を聴きに来るお客様に失礼だ」「未熟であってもプロはプロ。どんな言い訳もそこにはない」これが師匠からの教えだったそうです。また、新作落語を作るためにはたくさんよいお芝居や映画を見て経験を積みなさいとも言われたそうです。

彼は修業の中で古典落語を覚え、新作落語を何百編も作り、やがて世間からも認められる売れっ子落語家となり、今では「落語芸術家協会」の会長にまでなっていました。彼がここまで来るのには、妥協を許さない彼の死に物狂いの努力があったのです。

つまり、彼は新作落語を演じる落語家になるという夢・目的を叶えるために、古典落語を学ぶという目標と芝居や映画から多くの知識を吸収し落語に生かし、自分らしい新作落語を作り出すという目標を達成し、ついには彼の夢である新作落語の名人にまでなったのです。彼は言います、「ずるさとラクさを求めてはいけません」。だから彼は今でも大爆笑をとるための新作落語を毎日作り続けているそうです。